

「人権習慣」のきっかけに

第58回 人権週間「育てよう一人一人の人権意識」

— 思いやりの心・かけがえのない命を大切に —

全

世界共通の達成すべき基準として、昭和23年（1948年）12月10日の第3回国際連合総会で、基本的人権を守る「世界人権宣言」が採択されました。その後、この採択の日を「人権デー」と定め、加盟国に人権擁護活動の推進を求めたのが「人権週間」の起こりです。わが国では、昭和24年から法務省と全国人権擁護委員連合会が「人権デー」を最終日とする1週間（12月4日から10日まで）を「人権週間」と定めています。

今年58回目を数える「人権週間」では「育てよう一人一人の人権意識」をテーマに全国的規模で活動を展開。一人ひとりが命の尊さや大切さ、自分や周囲の人がかけがえのない存在であることを真に実感し「思いやりの心」と「かけがえのない命」を大切にすることを主題に、次の項目をはじめとする15の強調事項を掲げています。

福智町でも、この「人権週間」が、毎日考える「人権習慣」のきっかけとなるように啓発行事を開催します。みなさんの積極的な参加をお待ちしています。

部落差別は日本固有の重大な人権問題

部落差別は歴史的過程で形づくられた身分差別に基づくもので、わが国固有の重大な人権問題です。この問題の解決を図るために国や自治体は昭和44年以來、3度にわたる特別措置法に基づいて地域改善対策を実施してきました。同和地区の基盤整備は着実に成果を上げ、ハード面では大きく改善されましたが、今なお結婚を妨げられたり、就職で不公平に扱われたりするなど、差別現象はいまだに後を絶ちません。一人ひとりがこの問題について一層理解を深め、自らの意識を見つめ直すとともに、自らを啓発していくことが必要です。

女性と男性の立場と責任を対等に

「男は仕事、女は家庭」など、男女の役割を固定的にとらえる意識から生まれる男女差別は、家庭や職場で依然として根深く残っています。女性に対する暴力の解消も重要な課題です。これからの社会を担うためには、女性と男性が対等の立場で協力し、責任も分かち合うことが大切です。

子どもを一人の人間として守る

陰湿で執拗な「いじめ」、体罰、親による虐待、国内外での児童買春など、子どもの人権をめぐる問題は深刻な状況にあります。子どもも一人の人間として最大限に尊重されなければならぬということを、大人自身が自覚しなければなりません。

高齢者を敬い大切にすることを

我が国における平均寿命の大幅な伸びや少子化を背景に、社会の高齢化は極めて急速に進み、平成27年には4人に1人が高齢者になると言われています。高齢者が自立した一人人として生きがいを持って生活ができるよう、接していくことが重要です。

障害のある人の参加と平等の実現

障害のある人に対する理解や配慮はまだまだ不十分で、ノーマライゼーションの理念は完全には実現していません。対等に生活し、活動できる社会にしていけることが大切です。

人権と福祉のまちづくり講演会

日時 12月8日(金)19時

会場 福智町地域交流センター

講師 福岡県立大学 豊田謙一教授

演題 「人権と福祉のまちづくりに向けて」

※ 住民意識・実態調査アンケートの中間報告もあわせて行います。

① 人権同和対策課 ☎(0)77664

② ほんのほの館 ☎(0)6290

③ 人権特設相談所

- | | |
|------|------------------|
| ① 日時 | 12月6日(木)10時～15時 |
| 会場 | コスモス保健センター |
| ② 日時 | 12月13日(木)10時～15時 |
| 会場 | 方城福祉会館 |
| ③ 日時 | 12月20日(木)10時～15時 |
| 会場 | 金田社会福祉センター |

※ ノーマライゼーション (normalization) は1960年代に北欧諸国から始まった社会福祉をめぐる社会理念の一つ。障害者と健常者とは、お互いが特別に区別されることがなく、社会生活を共にするのが正常なことであり、本来の望ましい姿であるとする考え方。またそれに向けた運動や施策なども含まれる。